書籍『専修大学創立者物語』（仮題）

直木賞作家・志茂田景樹氏が執筆

育友会創立50周年記念事業

タイトル募集中！

専修大学育友会（松田了会長）では、本年創立50周年の節目を迎えるにあたり、さまざまな記念事業を計画している。

その一つとして、創立者4人（相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格）が、「夢」「希望」「勇気」を持ち、本学の前身である「専修学校」を創立するまでの軌跡とそこに込められた「建学の精神」を描く、清冽な青春小説『専修大学創立者物語』（仮題）を直木賞受賞作家の志茂田景樹氏の執筆により今秋、河出書房新社から出版するにあたり、「正式タイトル」を学生、育友会員、校友などから広く募集することとなった。

選考の結果、「志茂田賞」として、サイン入り初版本および図書カード20万円分が贈られる。優秀賞（10人）には、サイン入り初版本と図書カード1万円分、チャレンジ賞（50人）に図書カード2000円分が贈られる（なお、「正式タイトル」に該当者がいない場合は、選考委員会で決定）。

相馬　永胤

田尻　稲次郎

目賀田　種太郎

駒井　重格

●応募資格は次のとおり

▽本学の在学生・教職員
▽本学の育友会員（在学生のご父母・保証人）
▽本学の校友
▽石巻専修大学、専修大学北海道短期大学の在学生・教職員
▽付属高等学校の在学生・教職員）

※所定の応募用紙（育友会ホームページからダウンロード可能）で、5月24日（土）必着のこと。詳細は学内掲示ポスター、4月末発行の「育友」113号、ホームページで。【問】育友会事務局☎03（3265）6299／FAX03（3265）5082

☆志茂田景樹氏プロフィール☆　1940年静岡県生まれ。中央大学法学部卒。作家。

1976年『やっとこ探偵』で小説現代新人賞受賞、1980年に『黄色い牙』で直木賞受賞。推理小説、歴史小説、伝奇小説など幅広いジャンルで作品を発表、著作数は400冊を超える。テレビ出演やファッションショー出演、講演など、作家の枠を超えた多彩な活動でも有名。1999年「よい子に読み聞かせ隊」を結成。全国の子どもたちに物語の素晴らしさを伝え続けている。

日本文芸家クラブ理事長、帝京短期大学客員教授。

「千代田学」に2件採択される

千代田区が大学と区および地域との連携を推進し、区に関するさまざまな事象を学問として学ぶ08年度の「千代田学」に本学から2件が採択された。いずれも2回目の採択。テーマと担当教員、内容は次のとおり。

「千代田区の子育て環境の整備」

文学部・米田巖教授、福島義和教授

07年度支援事業で実施した調査研究結果を基に、首都圏域における千代田区の「子育て環境」の整備状況について、その再定義・再吟味・再評価を行いながら、成果とその課題を考察する。

「QRコードを利用した街事典および観光支援コンテンツの研究開発」

ネットワーク情報学部・栗芝正臣准教授

06年度支援事業で制作した「UCHI POCKET」を発展させ、街の魅力を再発見するとともに、区内の観光スポットをアピールする街歩き支援コンテンツおよび観光支援コンテンツを開発する。

専修大学カード

●加入キャンペーン中●

クレジット機能に加え、本学独自のサービスが受けられる専修大学VISAカードの加入キャンペーンを実施しています。6月末までに加入された学生、校友全員にオリジナルグッズをプレゼント。

お問い合わせは校友会☎03（3265）7579または、三井住友カード入会案内デスク☎0120・816437まで。

校友新社長紹介

五十嵐　泰彦氏（いがらし・やすひこ＝昭45商）㈱アイネスの代表取締役社長に6月25日付で就任予定。

校友短信

黒岩　彰氏（くろいわ・あきら＝昭59商）富士急スケート部の監督に4月1日付で就任した。同氏は88年カルガリー五輪500㍍銅メダリスト。

村田　亙氏（むらた・わたる＝平2文）7人制ラグビーの日本代表監督に就任した。同氏は日本人初のプロ選手として活躍した元日本代表スクラムハーフで、今年2月に現役を引退した。

校友からのお知らせ

〈写真部OB・OG会支部総会〉
▽4月19日（土）17時開会▽神田キャンパス15階ホール

〈愛知県支部主催ゴルフ大会〉
▽5月31日（土）▽豊川市「平尾カントリークラブ」

〈愛知県支部総会〉
▽6月14日（土）18時開会▽名古屋市「うな善」

公認会計士を講師に「プロフェッショナルが語る現代ビジネス事情」

5月スタート

キャリアデザインセンターでは、昨年開講して好評を得た「プロフェッショナルが語る現代ビジネス事情」を5月8日から全10回、神田キャンパスで開講する。

ビジネスの現場で活躍中の新日本監査法人の公認会計士が、最新のトピックス「内部統制とコーポレートガバナンス」「リスクマネジメント」「知的財産」「CSR」などをわかりやすく解説。同センターでは、「何のために学ぶのか」という目的意識を育み、キャリアを考える上で有益な情報が得られるこの講座に積極的に参加を、と呼びかけている。

※学生の受講料は2500円。校友、育友、一般の方も受講可能。受講料はそれぞれ異なる。詳細は同センターホームページで。☎044（911）7189

第8回ファンドマネージャー専大グランプリ参加者募集

野村證券の株式投資ゲーム（バーチャル株式投資倶楽部）に参加し、そのパフォーマンスを学内で競う。実際の株価を用いた投資ゲームで情報収集の習慣が身につき、活用の仕方が学べる。ゼミやサークル単位の団体戦にもチャレンジを。

参加対象は、学生、大学院生、育友会員、教職員。本年度1回目の申込締切は4月25日。詳細はホームページで。

専大校友を訪ねて

鹿屋市の公設事務所で4年間奮闘した弁護士

大山（おおやま）　勉（つとむ）さん（平3法）

―弁護士過疎の地で得た大きな糧―

九州最南端の都市、鹿児島県鹿屋市に03年開設された「鹿屋ひまわり基金法律事務所」の初代所長を務めた。弁護士過疎の地で奮闘すること4年。今後の弁護士活動の道しるべをつくる大きな糧を得た。

管内27万人に弁護士が1人という地区での「待ちに待った」公設事務所の誕生。スタート当初は住民が殺到、瞬く間に2カ月先まで予約が埋まり、夜は訴訟の書面作りに追われた。

「トラブルを抱えて暮らす人が、いかに多いかが分かりました」。相談内容は債務整理や遺産相続などさまざま。人に打ち明けられない問題を抱え、心に深い傷を負った人もいた。

「目線はあくまで低く」を貫き、身の上話にも根気よく耳を傾けた。

「相談者から『これでぐっすり眠れます』と感謝されると疲れが吹き飛びました」。2年間の任期をさらに2年延長。別れを惜しまれ、今年3月の移転時には連日連夜の送別会が続いた。

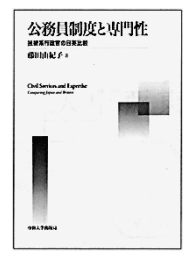
栃木県岩舟町の出身。弁護士1年のキャリアで飛び込んだ未知の地方都市での暮らしは、発見の連続だった。地域貢献にも積極的で、住民の住みよいまちづくりに弁護士ができることはなにかを模索。「行政、立法を確立し、地域の〝資源〟を有効に活用し、町を活性化させる。住民を引っ張るリーダーを育てる。その調整役になれたら」。

4月から東京・今村記念法律事務所（本学神田キャンパス内）での弁護士活動に加え、早稲田大学専門職大学院で公共経営を研究する。「隠れたニーズを見つけて応える」スペシャリストを目指す。

専大時代、多くの法曹を育てた辰巳法律研究所の創始者・故近藤仁一さんとの出会いが、「心ある」弁護士を目指すきっかけに。土木作業員、宅配員、ホテルのボーイなどをしながら司法試験挑戦12回の末、初志貫徹を果たした。「社会を支える現場を見てきたことが私の誇りであり、強みです」と言い切る。

専修人の新しい本

公務員制度と専門性
―技術系行政官の日英比較



藤田　由紀子著

医療や食の安全、公共事業などに関する行政は、高度な専門性が必要とされる分野である。特に近年は、科学技術の急速な発達のため、政策判断が難しい状況に直面することも多い。

本書では、行政における専門性をいかに確保すべきかという課題について、薬害エイズ、公共事業、BSE問題などを具体的事例としながら論じている。特に、このような分野の専門性を担う技術系行政官について、日本と英国の比較を行うことを通じて、日本の政治行政システムとその中における「技官」集団の特徴を明らかにしている。（専修大学出版局・本体4200円＋税）

著者（ふじた・ゆきこ）＝法学部准教授。主な担当は公共政策。

ドイツ中世美術Ⅰ

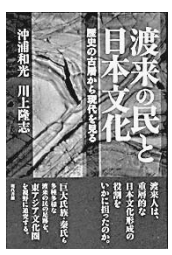
岡野 Heinrich 圭一著

本書は、初期中世から盛期中世（メロヴィング朝からロマネスク）までのドイツ中世美術の主要作品の様式や形態を描写記述し、それらの美術史的位置を示唆するものである。各章のはじめにある時代概観には、当時の時代背景や政治的背景などが紹介されているので作品がうまれた状況などを理解しやすいであろう。

「建築は数十年から数百年の工期があり、建築作品の各部位は年代を異にする場合が常であり配列に苦労した」とあとがきにあるが、年代順の配列を大原則としており、作品の現・所在地が冒頭にある。ドイツ中世美術探索の一助となる1冊である。（専修大学出版局・本体9000円＋税）

著者（おかの・けいいち）文学部教授。主な担当はドイツ語、芸術学。

渡来の民と日本文化



沖浦　和光
川上　隆志　著

一口に日本文化と言うが、その実像を見てゆくと、いくつもの層に分かれ実に多様な姿をしている。その大きな底流の一つが渡来の文化である。古代、朝鮮半島からの渡来氏族で最大集団の秦氏は、農業・養蚕・機織・鉱山・製塩技術者等の先進技術を日本各地に伝えた。播磨では皮鞣しや蹈鞴などの先進技術から能楽や歌舞伎等の芸能、陰陽師などの民間信仰など、その文化の多くは被差別部落に伝承された。本書は、日本文化に多大な影響を与えた渡来文化の形跡を、文献のみならずフィールドワークを交えて描く。渡来人は重層的な日本文化形成の役割をいかに担ったのか。巨大氏族・秦氏を中心に、多様な渡来の民の足跡を東アジア文化圏を視野に追究し、あわせて差別の根源に迫る。（現代書館・本体2200円＋税）

共著者（かわかみ・たかし）＝文学部教授。主な担当は出版文化論、日本文化論。